



BMW Motorrad information
【GS Trophy 2012】

日本チームの感想

Haruki Hisashi:

このレースを通して、世界中にたくさんの友人ができて、本当に楽しかったです。言葉の壁はありましたが、GSへの情熱は共通なので、わかり合うことができました。

競技もライディングも想像をはるかに超えるほど過酷でした。これはレースではないですが、長距離と、様々な状況下での走行、そしてハイスピードという点がとても難しかったです。



BMW Motorrad

GS Trophy 2012

South America

第3回目となるGSTロフィーが南アメリカ、チリ・アルゼンチンで開催され、過去2回を上回る19カ国を代表する15チームが参加し、7日間2,000キロに及ぶアドベンチャーが繰り広げられた。

走行ルートは森を抜ける粘土質の一本道もあれば、広大な平野を突っ切るかちこちの小道もあり、参加者は、火山灰に悩まされ、強い日差しに照りつけられ、雨で濡れになり、初春の山の寒さに凍え、競技は過酷さを極めた。



ドイツチーム優勝

ドイツチームはGSTロフィー3日目から早くも主導権を握り、そのまま他チームの追従を許さなかった。用意された16のチャレンジのうち、7つで上位3位までに食い込み、その安定した成績で他のチームを引き離れた。

しかし、優勝までの道のりは平坦ではなく、フランス・イタリア・アルゼンチンなどの強豪国を相手に、常に100%の力を出し切って戦わなければならなかった。



BMW Motorrad information
【GS Trophy 2012】



GSの精神

現在、BMW Motorrad セールス&マーケティング担当副社長を務めるHeiner Faust氏は、以前BMW Motorrad Japanの部長も務めており、ご存じの方も多いかもしれない。

しかし、Faust氏がGSTロフィーの生みの親であることはあまり知られていない。しかも、日本での在任中に、GSの精神を体現し、分かち合う方法はないかと考え、それが現在のGSTロフィーにつながっているのだ。

今回、Faust氏は初めて自分の考えによって生み出された、この楽しさと友情を目の当たりにした。

「GSTロフィーは我が社においても、またBMW Motorradの文化全体においても重要な意味を持っています。GS所有者や、GSコミュニティー、またGS愛好者にとっても一大イベントです。そんな皆さんが世界中から集まり、一緒に楽しんでいただけることは、とても素晴らしいことだし、我々にとっても大きな意味があります。GSTロフィーは、お客様を喜ばせるためだけのイベントではなく、我々の文化であり、夢でもあるのです。これがGSなんです！これがGSの全てであり、もちろんお金もかかりますし、決して安くはありませんが、このイベントを開催することによって、モーターサイクル業界において、他社にはまねできない我々独自の存在を確立しているのです。

こんなイベントを開催できるのはBMWの他にありません。世界中のライダーが、GSTロフィーに参加してみたいと思っていただきたいのです。

これからもずっとGSTロフィーは続けていきたいと思っているし、2014年の候補地も考えてあります。GSTロフィー2014へのカウントダウンは始まっています！」



BMW Motorrad GS Trophy 2012 South America – final standings:

1. Germany 256 pts
2. France 238
3. Italy 222
4. Argentina 215
5. Alps 202
6. USA 201
7. Canada 197
8. CEEU 196
9. UK 188
10. Latin America 181
11. South Africa 178
12. Russia 149
13. Brazil 120
14. Spain 109
15. Japan 89